

小学生の保護者の皆様へ

Machida Next Education

～いつでも どこでも だれとでも～【家庭学習編】

家庭学習推進の4つの視点

- 1 学習習慣の確立
- 2 生活習慣の定着・規範意識の醸成
- 3 読書活動の推進
- 4 ICT を活用した家庭における学びの推進



家庭学習の推進で



【保護者向け動画】
町田市の ICT 教育の取組
<https://youtu.be/9yhGHipkjCo>



2022年3月
町田市教育委員会

はじめに

学校でICTを活用した学びを充実していきます。

一人1台端末をはじめとするICTの活用により、画像や動画を利用した分かりやすい授業を通じた学習意欲の向上、児童・生徒の学習の習熟度に応じたデジタル教材による知識・理解の定着、電子黒板等を用いた発表・話し合いによる思考力や表現力の向上を図ります。また、小学校、中学校ともにデジタル教科書を活用して授業を行います。

一斉学習

授業の導入では、挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子どもたちの興味・関心を高めることができます。また、授業のまとめでは、学習して分かったこと、大切なことを全員で確認することができます。



個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となります。また、教師が一人ひとりの学習状況を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となります。

個に応じた学習



一人ひとりの習熟の程度に応じた学習

調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画による記録

思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

協働学習

一人1台端末や電子黒板等を活用し、教室内の授業や地域・海外の学校等との交流学习において子ども同士による意見交換、発表等、お互いを高め合う学びを通して、思考力・判断力・表現力等を育成することができます。

発表や話し合い



グループや学級全体での発表、話し合い

協働での意見整理



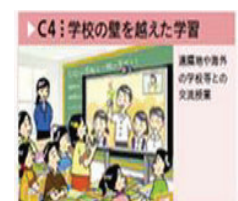
複数の意見、考えを議論して整理

協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

学校の壁を越えた学習



他地域や海外の学校等との交流授業

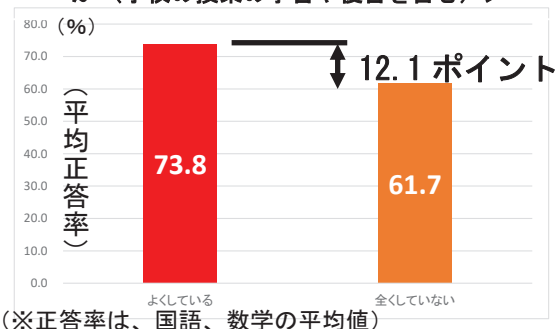
学校と家庭で連携した取組

1 学習習慣の確立

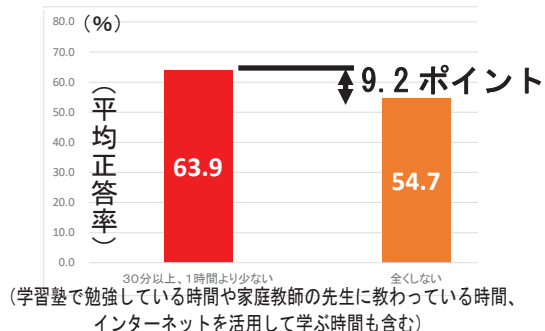
「学校と協力して、宿題や予習・復習など計画的に取り組みましょう。」

学習習慣と学力の関係「令和3年度全国・学力学習状況調査より」

＜家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）＞



＜学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか＞



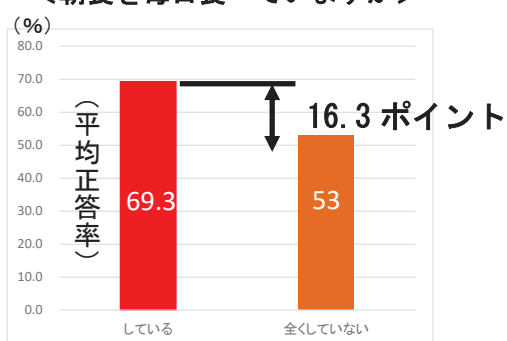
家で自分で計画を立てて勉強している児童と全くしていない児童では、正答率が12.1ポイントもの差があります。また、学校の授業以外の1日当たりの勉強時間について、「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童と「全くしていない」と回答した児童では、9.2ポイントもの差があります。

2 生活習慣の定着・規範意識の醸成

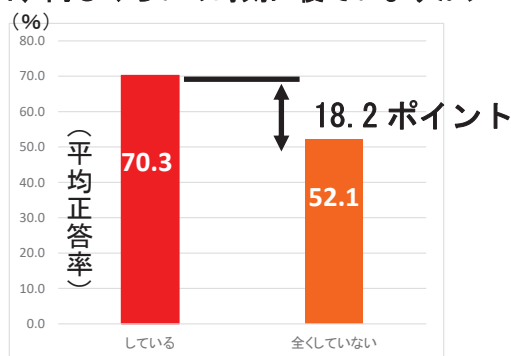
「早寝、早起き、朝ご飯を心がけましょう。テレビを見る時間、ゲームで遊ぶ時間、携帯電話を使う時間を決め、SNSルールを作りましょう。」

生活習慣と学力の関係「令和3年度全国・学力学習状況調査より」

＜朝食を毎日食べていますか＞



＜毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか＞



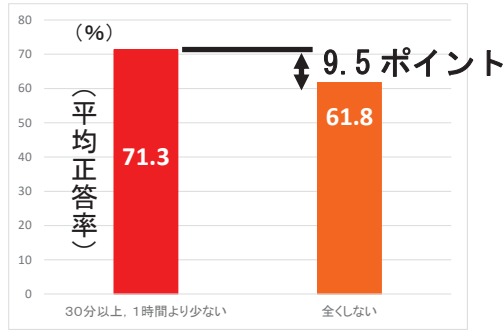
朝食をとっている児童と、全く食べていない児童では、正答率が16.3ポイントもの差があります。また、毎日同じ時刻に寝ている児童と寝ていない児童では、18.2ポイントもの差があります。規則正しい生活をする事は、学力の向上につながる傾向があります。

3 読書活動の推進

「家で本に親しむ時間をもちましょう。」

読書習慣と学力の関係「令和3年度全国・学力学習状況調査より」

＜学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか＞



普段、授業以外の1日当たりの読書時間について、「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童と「全くしない」と回答した児童では、正答率が9.5ポイントもの差があります。読書習慣を身に付けることは、学力の向上につながる傾向があります。

(※正答率は、国語、数学の平均値)

一人1台端末の使用 3つのポイント！

1

学習使用

学校でも家庭でも
端末は学習に使う



- 寝る1時間前からは、デジタル機器の利用を控える
- 端末は学習に関係ない目的で使わない
- 自分に合った問題に取り組む

2

目の健康

30・20・30で
近視予防



- 目を、画面から30cm以上、離して使う
- 30分に1回は、20秒以上画面から目を離して、遠くを見る
- 1分間は休憩する
- 部屋の明るさに合わせて、画面の明るさを調整する

3

悪口厳禁

悪口の書き込みは
法律で罰せられる



※発信元は特定できません

- 他人を誹謗中傷する投稿・書き込みをしない
- 他人のプライバシーにかかわる情報を投稿したり、書き込んだりしない
- 差別的な発言を投稿したり、書き込んだりしない

一人1台端末は、子どもたちの学習に役立つ道具です。子どもたちは、端末を使って自らの疑問について深く調べたり、クラウド型小中一貫学習支援ソフト（ドリルソフト）での反復学習など自分に合ったペースで学習したりすることができます。しかし、端末は便利な道具ではありますが、使い方を正しく理解していないと、視力や睡眠による影響や、インターネット上でのトラブルなどが心配されます。

教育委員会及び学校では、子どもたちが情報社会で生きていくために必要な資質と能力を身に付けられるようICTの活用を推進していきたいと考えておりますので、保護者の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

4 ICT を活用した家庭における学びの推進

町田市のICT教育の取組について

「ICT を活用した家庭での学びに挑戦しましょう」

学校では子どもたち一人ひとりが、タブレット端末を活用します。これまでよりも自由に想像力を働かせる学びができるようになります。クラウド型小中一貫学習支援ソフト(ドリルソフト)は、子どもたちの学習記録データを蓄積し、一人ひとりの力に合った問題をAIが出題して解説を行います。また、データに基づき、子どもたちが苦手になっている内容を学校の授業に取り入れることができます。タブレット端末を持ち帰り、家庭でも、繰り返し学ぶことで、力が身に付き、学習意欲も高まっています。

ICTの活用でできること・身に付く力

タブレット端末を活用した学び

タブレット端末の機能を使い、課題に対して、友達と意見を交換したり、共有したりすることが簡単にできるようになり、自分で問題解決する力が身に付きます。プレゼンテーションの資料を作成することができ、自分の考えを発信することも容易になります。



個別最適化

一人ひとりの理解に応じた学習問題を出題するクラウド型小中一貫学習支援ソフトを使用します。自分の力に合った問題を解き、学習の履歴をデータとして残すことで、学力を伸ばします。

情報活用

インターネットを使った情報収集とその活用が学校でも家庭でもできるようになります。



身に付く学力

問題発見・解決力

情報発信力

情報活用能力

町田市のICT教育

2021年度からの取組みについて



<https://youtu.be/9yhGHipkCo>

ICTを使った新しい学びの様子を動画で配信しております。二次元コードから、ぜひご覧ください。

学校やご家庭での学び方について

学校で

授業中、先生の質問に対して



手を挙げて
いるけど、
なかなか
当たらない。



みんなの前
で発表する
のは、緊張
する。



自分の意見
をいつでも
みんなに伝
えられる。
友達の考え
もよく分か
るよ。



大きな声で
発表するのは
苦手だけど、
これなら自分
の考え方を伝
えやすいよ。



ご家庭で

もっと難しい問題に
挑戦したい。



問題が難しく
て、一人では
分からない。



間違えても、
説明してく
れる機能が
あるから分
かりやすい。



自分に合
った問題
を宿題で
できるか
ら、学習が
楽しい。

保護者の方へのお願い

～タブレット端末の貸与にあたって～

確認書の提出

使用の開始に合わせ、学校から配布する「タブレット端末・ドリルソフトの利用申込書について」を確認の上、申込書を提出してください。

破損・紛失について

タブレット端末を破損、紛失した場合には、すぐに学校にお知らせください。破損・紛失の状況によっては弁償していただく場合がございます。



タブレット端末の返却について

卒業や転出の際には、学校に返却していただきます。また学校へ返却していただく時には、本体のほか、電源コードを忘れずに返却していただきますよう、お願いします。

インターネット接続回線について

家庭での利用の際は、ご家庭のインターネット回線を使わせていただきますよう、お願いします。



タブレット端末の充電について

長期休業中や、学校と家庭で連続して端末を利用する際には、学校から充電器を持ち帰りますので、各ご家庭で充電していただきますよう、お願いします。



タブレット端末使用にあたり、ご家庭でお子様と確認してください

学校でも指導いたします。ご家庭でもお子様と確認していただきますよう、お願いします。

取り扱いについて

タブレット端末は、「落とす」「たたく」「水に濡れる」などすると故障します。大切に扱うことを、ご家庭の使用でもお声がけください。



情報モラルについて

「インターネットには、自分や友達の個人情報を書き込まない。」「自分の考えを伝える時には、内容や伝わり方を考えて、言葉や表し方を選ぶ」ことなど、インターネットやICTへの適切なかわり方をご家庭でも話題にしてください。



端末管理機能について

インターネット上のお子様の安全を確保するため、学校でもご家庭でも安全にウェブサイトが閲覧できるように、フィルタリング設定を行っています。また、教育委員会では、タブレット端末のログを取得し、管理を行っています。

タブレット端末を使う時のやくそく（小学生）

<きほんのやくそく>

- タブレットは学習のために使います。学校でも、家でもそれ以外に使うことはきんしします。
- 落としたり、乱暴にあついたりしないようにしましょう。
- 水をかけたり、ぬらしたりしないようにしましょう。
- こわれた時は、学校に連絡してください。
- 自分のアカウントは、大切に管理してください。
- タブレットや学習ドリルソフトにログインする時のパスワードは他の人に教えないようにします。

こわれた時、調子が悪い時は、学校に連絡してください。



<学習に使う時のやくそく（学校でも家でも同じやくそくです。）>



◎インターネットを使うとき

- 学習で使うサイト以外には、アクセスしないようにしてください。
- けんさくサイトは、学習に関係することを調べる時のみ、使いましょう。
- 自分や周りの人の個人情報（名前、住所、電話番号、写真）などは、インターネットに紹介したり、書きこんだりしてはいけません。

◎カメラを使うとき

- 学習に必要なことをさつえいする場合でも、他の人やものを許可なく勝手にさつえいしてはいけません。
- さつえいの時に周りにうつる背景も、個人情報につながることがあります。さつえいするものや場所についてもよく考え、学校以外の場所や家でも許可なく勝手にさつえいしてはいけません。

◎意見を書くとき

- 相手をきずつけたり、いやな思いをさせたりすることを書いてはいけません。読む人への伝わり方を考えて、書くようにしましょう。

※みなさんが安全にタブレットを使うことができるようにするために、いつどんなことをインターネットで見たか、どんなことに使ったか、教育委員会で分かるようにしています。



＜持ち帰りのやくそく＞



- こわれないように、ランドセルに入れて持ち帰りましょう。
- 続けて利用するのは最長30分間とし、そのあとは必ず20秒間休憩をとりましょう。
- 利用時間は、60分間を上限として利用をしましょう。
- 家での利用は、決めた時間内で学習に活用するようにしてください。
- 利用時間以外は、家庭で保管場所を決めて保管してください。
- 充電器を持ち帰った日は、次の学習で使えるように、充電をしてください。

目とタブレットは、はなします。目がつかれた時には、遠くを見たり、休けいしたりします。

＜健康を守るためのやくそく＞



- しせいよくすわり、目とタブレットの間は、30cm以上はなして使いましょう。
- ねる1時間前からは、タブレットの利用をしないようにしましょう。

がっこう 学校のやくそく

-
-







かてい ご家庭でのやくそく

お家の方と話し合い、家で使う時のやくそくを決めましょう。（例：「夜9時以降は使わない。」など）

-
-



Machida Next Education～新しい学校の1日～（登校編）

児童・生徒	前日	教員
<p>下校後、家庭学習に取り組む。</p> 		<p>Classroom に、次の日に使う教材を準備する。</p>  <p>明日クラスの授業で使う資料を、子どもたちが見られるように準備をしよう。</p>
<p>子どもたちは教室で朝会に参加します。</p> 	<p>ホームルーム</p>	<p>朝会や集会の内容は、Meet で配信する。</p>  <p>感染症予防の観点から、全校で集まることが難しい時にも、朝会や集会ができます。</p>

授業

1 時間目、算数（数学）の授業では・・・

- 1 教科用デジタル教材（デジタル教材）を使って、「体積」の学習をする。

どの展開図が直方体になるのか、よく分からない・・・






教師用のデジタル教科書を使うと、展開図を動画の中で組み立てられる！解答に困っている児童に説明がしやすいです。

- 2 今日の学習内容を学習ドリルソフト「navima」で復習する。

一人ひとりの学習の進み方を、教員用画面で確認。

この単元は得意なので、発展問題にも挑戦してみよう。




同じ問題を5分以上考えているので、個別に声かけをすることにしましょう。




間違えた問題も、解説動画で考え方が分かった！似た問題は、自分の力で解くことができた！

授業後・・・



この問題は、間違えている児童が多いので、次の時間にもう1度説明しよう。



2時間目、国語の授業では・・・

1 課題について自分で考える。

まずは、自分の考えをノートにまとめてみよう。



タブレット端末を使って、自分の考えを記録しておくことにしよう。

2 考えたことを Google スプレッドシートに一齐に書き込んで、考えを共有する。

スプレッドシートに自分の考えを書き込んで、自分の考えを伝えよう。



学級の友達全員の意見を知ることができるので、おもしろい！

全員の考えを短い時間で把握できるので、子どもたちの力に合わせた授業を進められます。

3時間目、体育の授業では・・・

1 実技の様子を動画で撮影する。



どんなふうに跳び箱を跳んでいるか、動画で撮影をしよう。



動画を見て分かったことを話し合おう！



話し合ったことを動きに生かそう！



下校後

宿題が終わったら
オンラインで提出








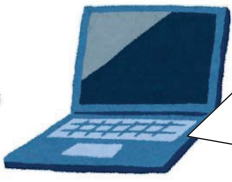


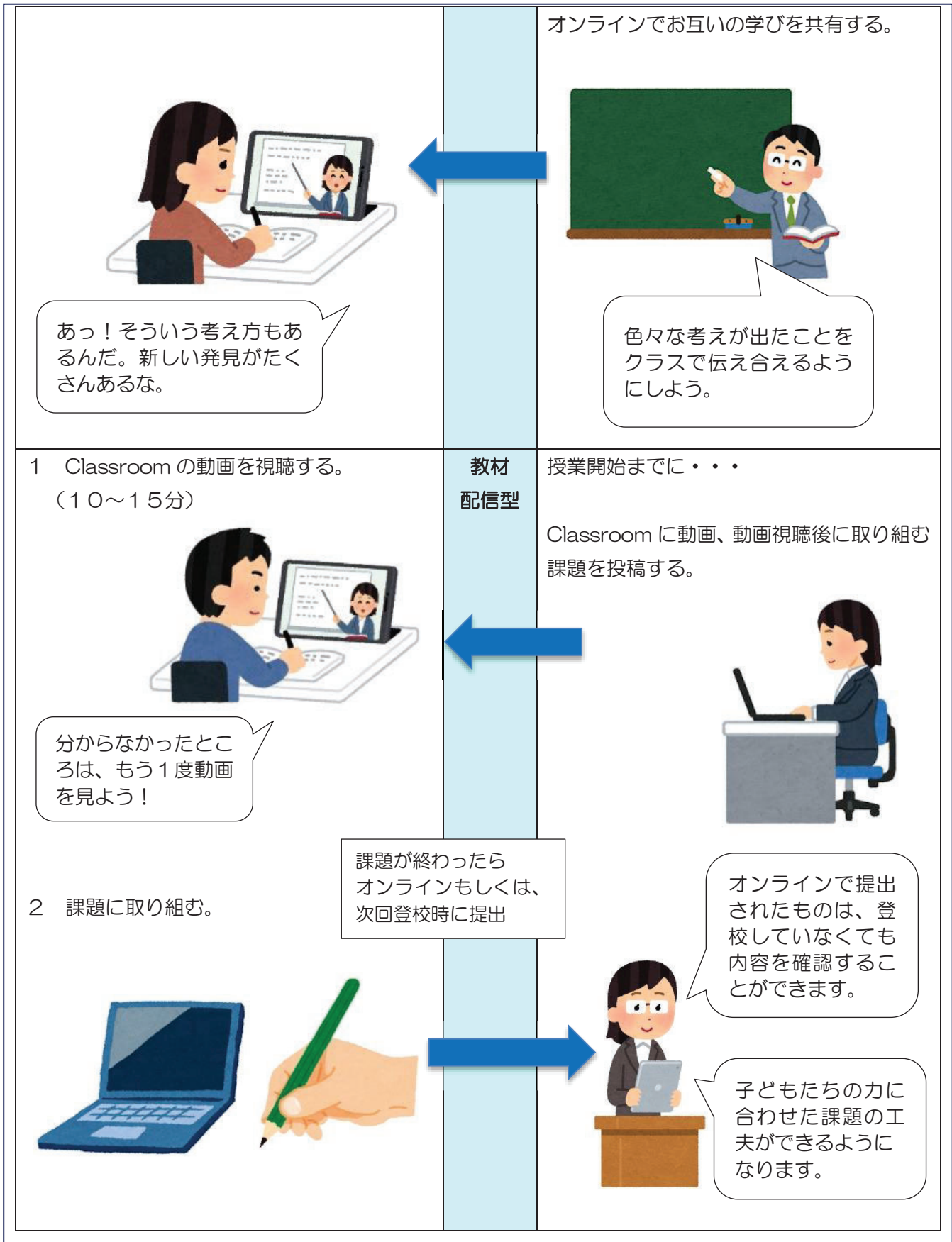
学校からタブレットを使って行う宿題が出たので、やってみよう！

オンラインで提出された宿題は、すぐに確認をすることができます。



Machida Next Education～新しい学校の1日～ (テレスタディ編)

児童・生徒		教員
 <p>明日はオンラインで授業を受けるので、タブレット端末のバッテリー残量を確認しよう。</p>	前日	<p>Classroom に、次の日に使う教材を準備する。</p>  <p>明日クラスの授業で使う資料を、子どもたちが見られるように準備をしよう。</p>
<p>朝の会に Meet で参加する。</p> <p>おはようございます！</p> 	ホームルーム	<p>ホームルームの内容は、Meet で配信する。</p> <p>おはようございます！</p> <p>出席の確認をします。</p> <p>1日の授業についての説明をします。</p> 
授業		
<p>1 Meet をつなく。 オンラインで授業に参加する。</p> <p>説明を聞きます。</p>  <p>2 Meet を切り、課題に取り組む。 (20分程度)</p> <p>時間の中で課題を各自行います。</p>  <p>3 Meet をつなく。 オンラインで授業に参加する。</p>	Live 型 (同時双方向)	<p>1 Meet をつなく。 授業をオンラインで15分程度行う。</p>  <p>新しく勉強することの説明をします。</p> <p>2 課題を提示する。</p> <p>これから、Classroom に配布したスライドに分かっていることをまとめましょう。</p>  <p>20分後に Meet に集合しましょう。</p> <p>3 Meet をつなく。</p>



Machida Next Education で育つ子どもの学びの姿

タブレット端末を学校の授業や家庭学習等で活用することにより、児童・生徒が自分自身で学びたいことを見付け、考え、解決する力、自分に必要な情報を選択し、問題解決に役立てる情報活用の力を伸ばしていきます。一人一人の課題の習熟度に応じた学習である「個別最適化」も、ICTの活用によって、実現します。下記の視点で子どもの学びの姿を一覧にまとめ、小・中学校9年間を通して町田市の子どもの力を育成していきます。

【身に付ける力】：「自分で学ぶ」「友達と学ぶ」「考えをまとめ表現する」
【情報活用力の視点】：「Google for Education」「クラウド型小・中一貫学習支援コンテンツ」「教材用デジタル教材・デジタル教材」「プログラミング的思考」「情報モラルセキュリティ」

学年	自分で学ぶ	友達と学ぶ	考えをまとめ表現する	Google for Education	クラウド型小・中一貫学習支援コンテンツ「navima」	教材用デジタル教材・デジタル教材	プログラミング的思考	情報モラルセキュリティ	
小学校	第1・2学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を使い、課題に応じて個別学習を進めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 友達が書き込んだ文章を読んで感想をもつことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを手書き入力や音声入力で行書き込むことができる タブレット端末を使い、写真を撮ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> スライドやJamboardに自分の考えを書くことができる スライドやJamboardに画像を貼り付けることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 決められた時間に、個別最適化された問題に取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書等の二次元コードを読み取り、インターネット上のデジタル教材を利用することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な手順を順序だてて説明することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や相手のことを考えて話したり、伝えたりすることができる 自分のIDやパスワードを守るができる
	第3・4学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を使い、課題の中で自分のめあてを設定して、個別学習に粘り強く取り組むことができる 検索機能を使って、教員の示したWEBページを見つけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 友達が書き込んだ意見を自分の意見と比べて、同じ所や違うところを見つけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字入力で自分の考えを書き込むことができる 自分の使いたい画像を取り込んで、資料を作成することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントやスライド、スプレッドシート等に自分の考えを書いたり、情報をまとめることができる Jamboardの協働編集機能を活用し、グループで考えをまとめることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてを決めて、個別最適化された問題に取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学習に必要なデジタル教材を選択し、教科書等の二次元コードを読み取り利用することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフを用いて、情報や手順を整理・説明することができる 問題解決に向け、見直しを立てて手順の組み合わせを考え、実行することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の情報の大切さを踏まえ、適切に行動しようとするができる インターネットの使いすぎについて考え、自分の生活について振り返ることができる
	第5・6学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、自分に必要な学習やめあてを考えながら、個別学習に取り組むことができる 検索機能を使って、WEBページから必要な情報を見つけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決を目指し、協働編集機能を活用しながら話し合い、より良い考えを見付けることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を目的に応じて集め、まとめることができる 他者に説明することができる 自分の考えを分かりやすく伝えるための資料を作成することができる 	<ul style="list-style-type: none"> フォームを作成し、自分の欲しい情報を集めることができる ドキュメント、スライド、スプレッドシートの協働編集機能を活用し、グループで課題を作成することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の苦手とするところを分析しながら、自分のめあてを決めて個別最適化された問題に取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 教材用デジタル教材の基本的な機能(拡大、マーカー、動画や音声の再生など)を知り、授業の中で活用することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 意図した処理を行うための、適切なプログラム制作ができる 問題解決に向け、計画を立案し、他者と協議しながら実行することができる 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上に個人情報や写真を掲載しようとする点を理解し、適切に行動することができる 不審なメールや迷惑メールなどに適切に対処することができる
中学校	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、自分の目標に応じた課題を選択しながら、個別学習に取り組むことができる 検索機能を使って、複数のWEBページから必要な情報を見つけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決を目指し、協働編集機能を活用しながら話し合い、より良い考えを見付けることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を目的に応じて集め、まとめる方法を適切に選択することができる 自分の考えを分かりやすく伝えるために、表やグラフを用いて情報を整理することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメント、スライド、Jamboardを学習に合わせて使うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査などから自己分析を行い、必要であれば小学校の内容に戻りながら、個別最適化された問題に取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 教材用デジタル教材の基本的な機能を知り、授業の中で活用することができる 教材用デジタル教材の発展的な機能(考えの整理や作図)を利用して考えをまとめることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 意図した処理を行うための、適切なプログラム制作ができる 問題解決に向け、計画を立案し、他者と協議しながら実行することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関する自他の権利を知り、個人情報を適切に管理することができる ルールやマナーを守り、チャット、電子掲示板、Web、SNSなどを利用することができる
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、自分の目標に応じた課題を選択しながら、個別学習に取り組むことができる 目的に応じて、情報の真偽を考えながら、適切に検索することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決を目指し、協働編集機能を活用しながら話し合い、複数の計画を立案・評価することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 事実や根拠に基づき、論理的・客観的に分析・判断したことを伝える資料を作成することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントやスライドを利用して、学習レポートを作成することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇などの際に、自分の目標に応じた課題を選択し、計画を立て、個別最適化された問題に取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 教材用デジタル教材の基本的な機能を知り、授業の中で活用することができる 教材用デジタル教材の発展的な機能を利用して考えをまとめることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決に向け、複数の計画を立案し、評価・改善しながら実行することができる 情報の傾向や変化を捉え、解決策を考察することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、チャット、電子掲示板、Web、SNSなどを適切に利用することができる 目的に応じてアプリやインターネット上のサービスを安全に利用することができる
	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、進路を考えながら課題や目標を設定し、個別学習に取り組むことができる 目的に応じて適切に検索し、多角的に情報を収集することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決を目指し、協働編集機能を活用しながら話し合い、情報を統計的に整理し、考察することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を、情報とその結びつきの観点から捉え、批判的に考察し、判断したことを伝える資料を作成することができる 	<ul style="list-style-type: none"> スプレッドシートの関数を利用して、情報を統計的に整理することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 進路を考えながら課題や目標を設定し、個別最適化された問題に取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 教材用デジタル教材の基本的な機能を知り、授業の中で活用することができる 教材用デジタル教材の発展的な機能を利用して考えをまとめることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークを介したコンピュータ同士の接続を伴うプログラムを作成することができる 表やグラフ、計算などにより、情報を統計的に整理することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関する個人の権利と重要さを踏まえ、適切に行動しようとすることができる 情報や情報技術をよりよい生活や持続可能な社会づくりに生かそうと考えることができる



考えをまとめ表現する姿の例（小学校）



友達と学ぶ姿の例（中学校）